

# SA の自己省察を目的とした

## 電子掲示板の活用状況に関する一考察

長瀬勇輝\*

遠海友紀\*

岩崎千晶\*\*

水越敏行\*\*

\*関西大学大学院総合情報学研究科

\*\*京都外国語大学国際言語平和研究所

\*\*\*大阪大学名誉教授・関西大学特別顧問

### 1. はじめに

大学は公開授業や授業アンケートを実施するなどして授業を改善し、その質を上げていくための取り組みをしている。そのひとつに TA (ティーチングアシスタント) や SA (チュードントアシスタント、以下 SA) として学生を雇用して、授業の中で活用する取り組みがある (岩崎ほか 2008)。関西大学においても学生を SA として雇用し、授業資料の配布やプロジェクタなどの機器の設置をするなどの教員支援を行っている。しかし学生が支援者として質の高い活動をするためには、SA に必要な技術やスキルを育成するための教育が必要になる。関西大学では SA が一定の質の支援を行うために、職員や教育工学を専攻する大学院生のアドバイザースタッフが連携し、研修の企画や業務を通して SA の成長を促すための仕組みを提供している。そのひとつに日々の活動をふりかえるための業務日誌としての電子掲示板がある。SA は業務にかかわる前に研修を受けているが、1 日の研修では十分な知識を習得することが難しい。そのため、SA は実質的に職員や他の SA との相互的な関わりや実践といった日々の活動を通して、業務に必要な技術や知識を修得していくことになる。電子掲示板では、SA がそうした業務に取り組む過程で、どのようなことに問題意識を持ち、それを改善しているのか書き込むことで活動をふりかえり、日々の業務を改善していくことを促している。本研究ではこの電子掲示板の運用が SA のふりかえりを促しているのかを分析する。その結果を通して電子掲示板を運用する際の留意点を提案する。

### 2. SA の活動と教育体制

#### 2.1 授業支援 SA の活動

関西大学では約 200 名の SA を雇用している。SA の業務は授業資料の印刷や機材貸出の受付、プロジェクタやパソコンなど機器の設置、出席表やレポートの配付・回収・管理などである。SA は、学内に設置された授業支援ステーション (以下、ステーション) と呼ばれる窓口を拠点として、活動している。

#### 2.2 業務のふりかえりとしての電子掲示板

SA が活動をふりかえるために、業務日誌として電子掲示板を用意している。電子掲示板には各ステーションのスペースが用意されており、業務後に SA は自己の活動をふりかえり、記録する。電子掲示板には、「活動でうまくいったこと」、「反省点」、「今後どのように活動していくのか」の 3 つの観点からふりかえるように提示している。同じステーションに所

属する職員や、SA 同士が各記録に対してコメントできる機能もある。

### 3 研究の方法と分析考察

本研究では、SA (206 名) を対象にアンケート調査し、125 名から有効回答を得た。また、活用がふりかえりにつながっていると感じている SA (3 名) にはインタビュー調査をした。

SA 125 名のうち、31 名 (24.8%) が電子掲示板は「ふりかえりに役立っている」と答えており、78 名 (62.4%) が「ある程度役立っている」と答えている。「あまり役立っていない」が 13 人 (10.4%) 「役立っていない」と回答した SA は 3 人 (2.4%) であった。過半数の 109 名が電子掲示板の活用は、業務のふりかえりにつながっていると感じている。「普段どのようにふりかえりをしているか」という自由記述の質問では、「電子掲示板に書き込むことで、その日あったことをふりかえることができる」「電子掲示板に書き込むことが定期的なふりかえりにつながる」という意見があげられた。

では具体的に「どのようなふりかえりをしているのか」また「ふりかえることで、業務にどのような影響があったのか」をインタビューで調査した。インタビューは、アンケートにおいて「電子掲示板を活用することでふりかえりにつながっている」と答えた 3 名の SA を対象とした。学生 A と B は、「電子掲示板に記録することで、その日の活動で分からなかったことをふりかえることができる」と述べ、教室に設置されたプロジェクタやコンバータなどの機器を、うまく設置できないトラブルがあった際などに、実践において、どのように自分が問題を解決したのか、また職員からどのようなアドバイスをもらったのかを文字化することでふりかえることができ、具体的な手順を再度確認できたという。トラブルがあった時、電子掲示板に記録することで自分が何で困っていたのかを確認することができ、また投稿に対して、他の SA や職員から返信が寄せられたことで、その疑問点が更に解消するなど電子掲示板に記入することが活動での課題を改善するための機会になっていたことが分かる。詳細に関しては当日報告する。

### 4. まとめと今後の展望

調査の結果、職員や他の SA との相互的な関わりがふりかえりをより促すことが分かった。電子掲示板を改善するためには、職員や他の SA との相互的な関わりを取り入れるような工夫が必要にある。そのためには他の人の書き込み内容を確認しやすいよう、トピックの件名を工夫することや記録内容の検索機能を充実させること、記録内容をカテゴリー分けし、関心のある書き込みへのアクセスを容易にすることなどが考えられる。また今後、より多くの SA にインタビューを取り、電子掲示板の改善点を明らかにする必要がある。

### 参考文献

岩崎千晶、遠海友紀、水越敏行(2008) 「高等教育における学生資源を活用した授業改善と組織的支援」 第 23 回日本教育工学会全国大会講演論文集 pp. 467-468